

平年よりも降雪が多くなる恐れがあります。大雪対策を！

1 気象予報概況

東北地方の1ヶ月予報（仙台管区气象台 12/31 発表）によれば、東北日本海側では平年に比べ曇りや雪の日が多くなる見込みで、平均気温が平年より低い確率は50%です。気象条件によっては大雪となる可能性もありますので、必要に応じて樹体や果樹棚の雪下ろしを実施して被害を防ぎましょう。

2 令和2年産リンゴ「ふじ」の果実品質

会津若松市北会津町のリンゴ「ふじ」は11月下旬頃に収穫されました。会津農林事務所で行った「ふじ」の収穫果調査（表2）における平均糖度は15.6度とほぼ平年並みで、「ふじ」の目標糖度14度以上を満たしていました。

表1 会津農林事務所における収穫果調査結果（北会津町、11月30日実施）

年度	平均果重(g)	縦径(mm)	横径(mm)	平均硬度(lbs.)	平均糖度(°Bx)	平均蜜入り指数
R2	305	80.3	87.6	14.7	15.5	3.3
平年(H26~R元)	328	82.7	88.2	14.3	15.6	3.7

3 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア 粗皮けずりや大枝落としを実施しましょう！

「合成ピレスロイド系」に分類される薬剤（例：MR、ジョーカー水和剤、ロディー水和剤、イカツチWDG等）を多用した園地では、翌年にカイガラムシ類やハダニ類等が多発することがあります（「リサーチェンス」と呼ばれる現象です）。「合成ピレスロイド系」薬剤はカメムシ類に対する効果が高いため、令和2年に多発したカメムシ類の防除において多用した方も多いかと思えます。

すでに令和2年においてカイガラムシ類が多発していた園地などでは、なるべく粗皮削りを実施して、カイガラムシ類等の越冬量を減らしましょう。また、今年のせん定では、なかなかせん除できず残していた大枝があれば、思い切って今年せん除して、これから散布する農薬がよく樹にかかるようにしましょう。

イ 大雪対策

今年の冬は、平年に比べ積雪が多くなる恐れがあります。次の点に留意しましょう。

- 樹体や果樹棚への着雪が多い場合は、速やかに雪下ろしを行いましょう。また、主枝・亜主枝などには支柱を添え、折損等の未然防止を心掛けましょう。
- りんごのわい化栽培等では、主幹部が木支柱やトレリスにしっかり固定されている

か確認しましょう。

- 枝が雪に埋没している場合は、雪の沈降が進まないうちに掘り出しましょう。なお、雪が固まってから掘り出す場合は、周囲に切り込みを入れて溝をつくり、沈降力を軽減してから行うのがポイントです。

(2) リンゴ

ア リンゴの花芽分化率調査結果

概ね平年並みですが、摘果が遅れた園地や黒星病が多発した園地などでは花芽分化率が低くなっているようです。このような園地では、樹が弱っている可能性が高いので、弱めのせん定を心掛け、さらに春には摘花を実施して、樹勢の回復を図りましょう。

表2 花芽分化率調査結果（北会津町・磐梯町、会津農林事務所 12月23日実施）

年度	つがる		ふじ	
	北会津町	磐梯町	北会津町	磐梯町
R2	59%	81%	87%	44%
平年(H14～R元)*	71%	77%	68%	62%

※磐梯町の平年値はH22～R元の調査値より算出した。

イ 今年のせん定方針

摘果が遅れた園地や黒星病が多発した園地では、樹勢を回復させるため、弱めのせん定を心掛けます。ただし、農薬を効果的に散布できるよう、枝が混み合っている箇所では枝を残しすぎないように留意しましょう。なお、老木は間伐して園地の若返りを図りましょう。

(3) カキ

ア 落葉病が多発した園地でのせん定

昨年は落葉病が各地で発生しましたが、とくに農薬が十分にかからなかった箇所では多発したようです。樹齢50年以上の老木で樹勢の弱った樹を間伐するなどして、農薬がよくかかるようにしながら園地の若返りを図りましょう。

イ 今年のせん定方針

今年は日焼け果が多く見られました。成り枝をなるべく立体的に配置して、日陰になる果実を多く確保しつつ作業性と単収を向上されるよう留意してせん定を実施しましょう。

(4) モモ

ア モモせん孔細菌病の多発に配慮したせん定方針

モモせん孔細菌病の対策においては春型枝病斑のせん除を徹底することが非常に重要ですが、春型枝病斑が多発するとせん除する枝も増えるため成り枝が不足し、減収となる恐れがあります。

令和2年にモモせん孔細菌病が多発した園地や、それに隣接する園地では、令和3年度も多発する恐れがありますので、次の点に留意して冬期せん定を実施しましょう。

- 例年よりも結果枝を1割程度多く残しましょう。
- せん孔細菌病がとくに激発している園地では、その発生状況に応じて結果枝を例年よりも2～3割程度多く残し、切り戻しは例年よりもやや弱く実施しましょう。

(5) ナシ

ア 黒星病対策

ナシ黒星病対策では、**落葉が翌年の感染源となるため、落葉を集め適切に処分することが重要です**。遅くとも雪が概ね溶ける3月上旬頃には落葉処理を実施しましょう。落葉は雑草の繁茂や道路との段差等により園地周囲に集中してたまりやすく、その部分が黒星病の一番の感染源となります。園地周囲の落葉をそのまま放置することは絶対に避けましょう。

落葉を集めることが労働力不足等で難しい場合、乗用モアで落葉を粉碎処理することも有効です。

＜乗用モアでの落葉処理＞

- 少なくとも2回実施します。
- 10aあたり30分程度を目安に、園地を縦横に走行しながら実施します。
- 刃はなるべく低くし、地上2～3cmにします。
- 下草が残っている場合は、下草も巻き込んで粉碎します。

4 「水稲育苗ハウスでブドウを栽培する手引き」を作成しました

会津農林事務所では11月に、「アグリふくしま革新技術加速化推進事業」の一環で、「水稲育苗ハウスでブドウを栽培する手引き」(図1)を作成したことから、当該技術の幅広い普及を図ることを目的としたセミナーを開催しました(令和2年12月7日)。

セミナーには水稲生産者やブドウ新規栽培希望者など約40名が参加し、基本的なブドウ栽培の技術について学習しました。実証ほの現地確認では、具体的な栽培管理の方法について活発に議論が交わされました。

なお、この「手引き」は会津農林事務所のホームページからダウンロードできます。ブドウは水稲作業との競合が少なく、水稲育苗ハウスに簡易な改修を加えるだけで栽培できるため、初期導入費用を抑えて所得向上を目指すことができます。ぜひ御活用ください。



図1「水稲育苗ハウスでブドウを栽培する手引き」表紙